

I . 認知症の国際連携

三重県内の認知症の国際連携の取り組みに関する 現状把握調査結果

■調査目的

三重県内の医療、看護リハビリテーション、工学、社会福祉分野での、認知症に関する国際連携の取り組みの現状の把握を行うことを目的とする。

例：認知症の病態理解のための研究

新規治療薬の開発のための大規模レジストリーの構築

認知症の医療介護に関する海外との学術交流

人材育成を支援する研修の推進

認知症施策の情報交換

■調査方法および期間

方法：調査票を郵送配布、郵送にて返信

期間：2019年7月1日～7月31日

■調査対象者

三重県内の大学・短期大学で、医学、看護学、リハビリテーション学、工学、社会福祉学を教育している教育機関

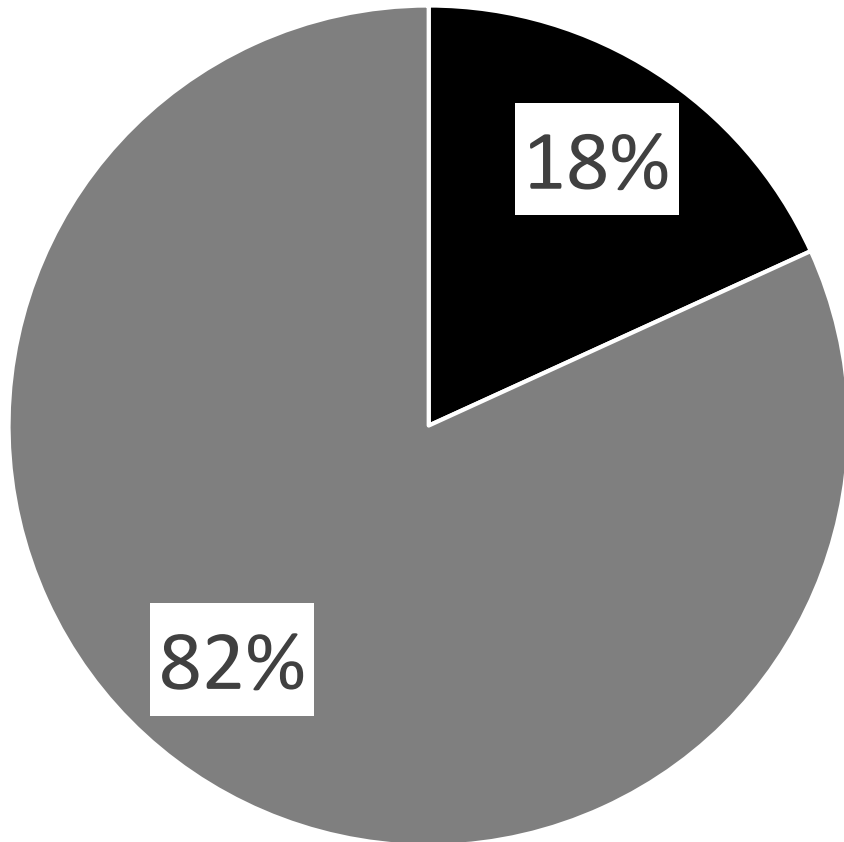
■アンケート結果

アンケート配布数：12

アンケート返信数：11

回収率：91.7%

◆認知症に関する海外を対象にした研究・取組の有無 (N=11)



◆取り組み内容

英国のCardiff大学では時計描写テストを用いた認知症の評価システムについて、工学的画像処置のアプローチからの研究が進められている。

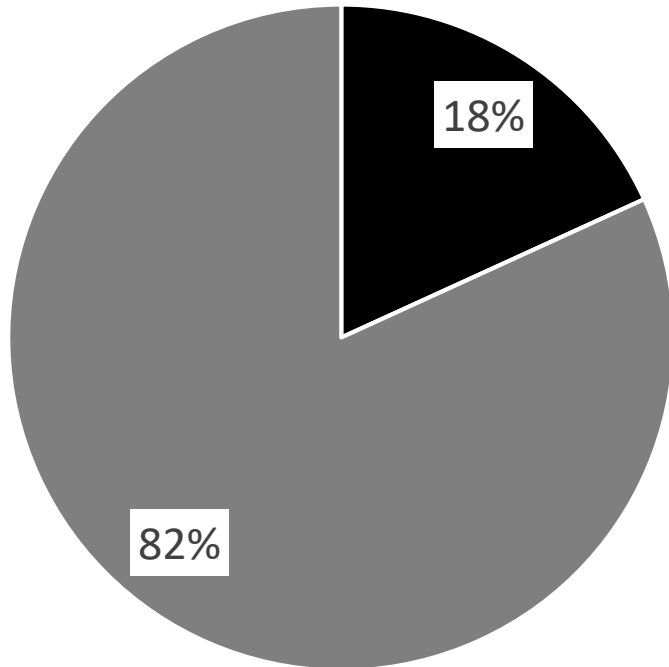
(三重大学大学院工学研究科)

「適時適切な医慮・ケアを目指した、認知症の人等の全国的な情報登録・追跡を行う研究」研究班(オレンジレジストリー)で上海MCIコホート研究と国際連携を行っている。

(三重大学医学部附属病院)

◆認知症に関する海外との学術交流の有無 (N=11)

◆取り組み内容



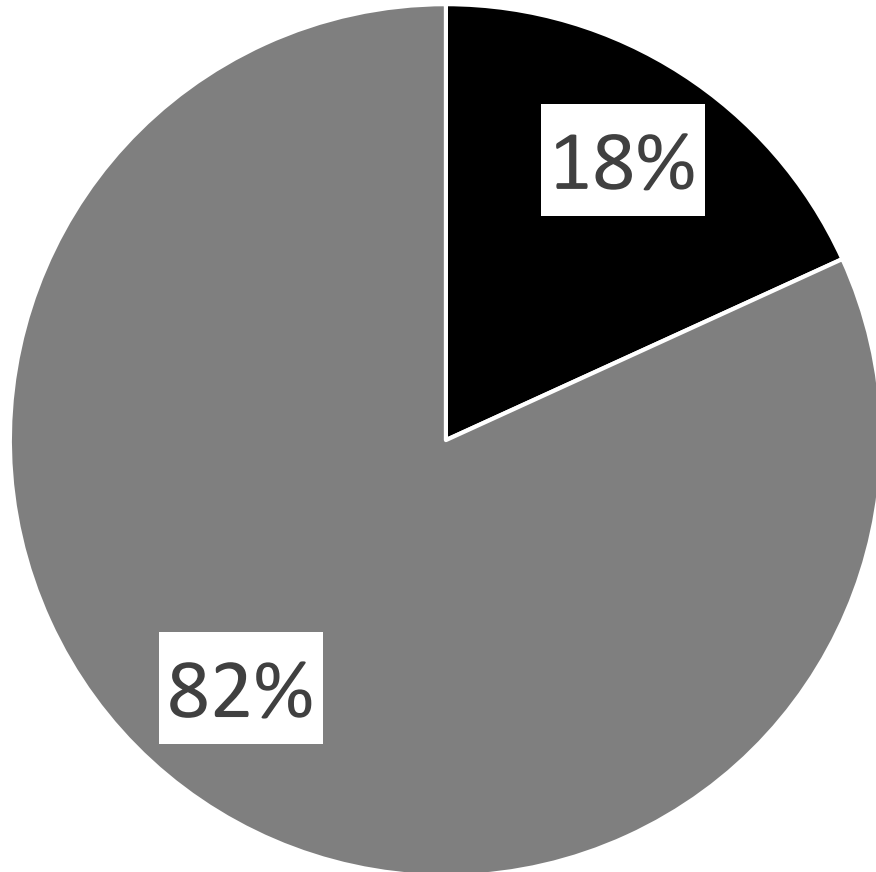
- あり
- なし

- ・ 本研究室では英国cardiff大学の研究室と協同で研究を進めている。Cardiff大学との交流は2013年の北九州市での国際会議をきっかけに現在まで続いており、数年に1度のペースで本研究室大学院生が短期留学している。（三重大学大学院工学研究科）
- ・ 遺伝性脳症血管病性認知症CADASILのレジストリー構築を行って、診療ガイドライン作成に関与した。（三重大学医学部附属病院）

学会発表

- ・ 台湾脳卒中学会において、血管性認知症の病態、画像診断に関する教育講演を行った。（三重大学医学部附属病院）
- ・ Society for Neuroscience, 2017. 11/11-15, Washington.（三重大学医学部附属病院）
- ・ XXII World Congress of Neurology, 2017. 9/16-21, Kyoto, Japan.（三重大学医学部附属病院）
- ・ The Neurosciences and Music – VI. 2017, Boston, USA.（三重大学医学部附属病院）

◆認知症の相互理解の推進と協力体制の構築を図る活動の有無（N=11）



◆取り組み内容

- ・共同研究を通じて継続的に情報交換を行っている。なお、cardiff大学と三重大学は協定校である。
（三重大学大学院工学研究科）
- ・虚血性脳卒中の治療法について治療研究を行って国際脳卒中学会およびLancet Neurology誌に発表した。
（Lancet Neurol 2019）（三重大学医学部附属病院）

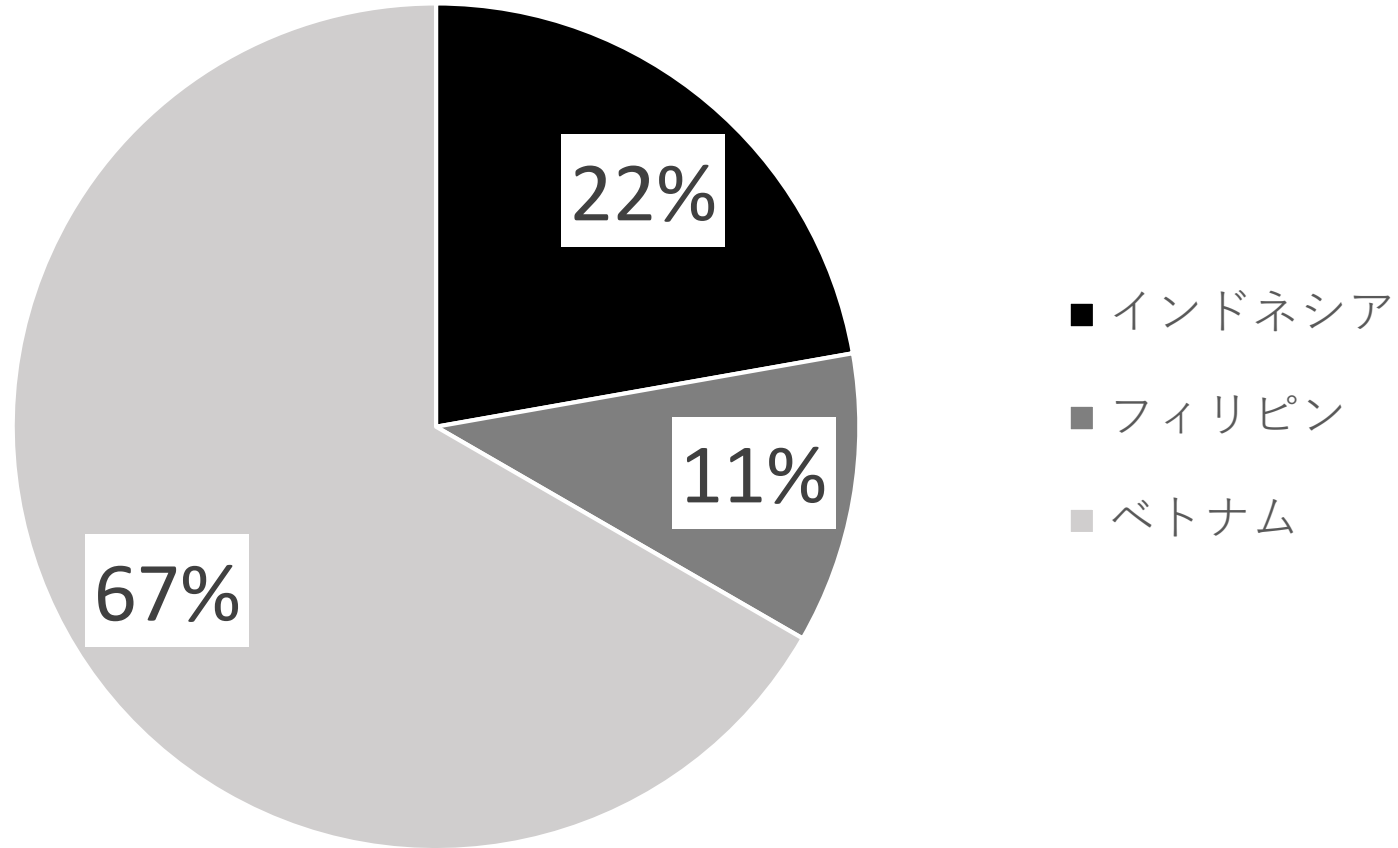
- あり
- なし

◆認知症に関する海外との人材育成研修事業 の取り組みの有無 (N=11)

アンケートの回答では、認知症に関する海外との人材育成研究事業の取り組みをしている回答はなかった。しかし情報収集をする中で、認知症に特化した内容ではないが、外国人看護師や介護福祉士の受け入れに関する制度や課題が見えてきました。

◆三重県におけるEPA 外国人看護師受け入れ状況

H20～30年 (N=9)



◆三重県におけるEPA 外国人介護福祉士候補者受入状況
H20～30年(N=25)

